国営農地再編整備事業における ワークショップ活動の展開

Deployment of Workshop Activities in the Government-operated Agricultural Land Reclamation and Readjustment Project

宮本治英† (MIYAMOTO Harufusa)　海野ちぐさ† (UNNO Chigusa)

I. はじめに

国営農地再編整備事業由仁（ゆに）地区は，北海道夕張郡由仁町に位置し，圃場の大区画化や担い手農家への農地集積などによって，農用地の効率的利用ならびに生産性の向上を図ることを目的として，平成16年度から9年間の予定で実施されてきた。事業を契機に，地域住民と受益者，町役場，土地改良区，JA，国営農業事務所などの事業関係者との連携による町おこしの実現につなげることを目的とした「みんなでつくる農業・農村の会」の取組みが開始され，平成24年12月までに43回のワークショップが開催されてきた。

ワークショップでは，由仁地区で整備する排水路整備や後述する防風林と南北樹林帯の整備構想のあり方，地域の活性化に向けた取組みなど，多くのテーマが取り上げられてきた。参加者から出た意見やアイデアをもとに，計画立案から実作業までもが行われ，またその活動の中で見いだされた課題や改善点を以降のワークショップ活動で検討してきた。

本報では，由仁地区のワークショップのあらましと，その活動のうち南北樹林帯整備構想の検討経過およびその維持管理活動について紹介する。

II. ワークショップの運営主体

ワークショップの運営主体として，活動初期には町役場，土地改良区，JA，国営農業事務所が事務局メンバーとして活動方針の策定や課題抽出などを行ってきた。しかし平成21年度より住民自らが活動計画の主体となり，現在は住民代表が事務局メンバーとして参加している。著者らはワークショップのファシリテーターとして開催支援やとりまとめを行ってきた。

III. ワークショップの活動

1. 南北樹林帯の整備構想

由仁地区は太平洋から流れ込む南東の季節風の影響を強く受けている。高品質米比率低下の原因の1つとして特に低温時に吹く風の影響がある。この風害対策として，国営事業では東西方向に防風林を設置することとし，現在までに4,400本余りのミズナラが植樹された。

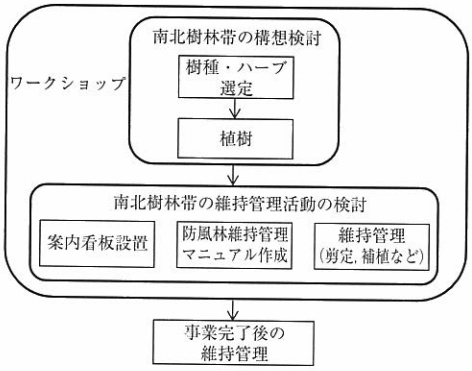

図-1　南北樹林帯に関するワークショップの活動内容

一方ワークショップでは，東西方向の防風林帯を南北につなぎ（約1km），地区内に人や小動物，鳥類が集まれる樹林帯を整備することを目標とした「南北樹林帯」の整備構想および整備後の維持管理について検討を重ねた。**図-1**は，南北樹林帯についてのワークショップ活動内容を示した模式図である。

(1) 南北樹林帯の植栽の検討　ワークショプでは南北樹林帯に植える樹種や配置計画について検討した。南北樹林帯にはミズナラを5m間隔で植樹し，その間には花が美しい「ミヤギノハギ」と，実を食べることができる「ブラックベリー」を植え，さらに樹木の根元には雑草対策としてハーブの「アジュガ」を植栽することにした。これは，有識者や町在住の専門家

写真-1　勉強会の様子

† （株）地域計画センター

キーワード　地域活性化，住民参加，防風林，維持管理活動，地域住民との連携，ワークショップ，農地再編整備事業

写真-2　植樹祭の様子

を交えた勉強会の開催（**写真-1**）をもとに，決定した。

(2)　植樹　平成19年6月の第58回全国植樹祭が北海道（苫小牧市）で開催される日程にあわせて南北樹林帯への記念植樹が実施された。町内外約80名の参加者によって，ミズナラ240本，ブラックベリー60本，ミヤギノハギ60本の植樹とアジュガの植栽が行われた（**写真-2**）。

2．　南北樹林帯の維持管理活動

植樹後の南北樹林帯では，地区の受益者や地域住民が中心となったワークショップ活動により，ＰＲ用案内看板の設置や維持管理活動が行われている。

(1)　案内看板の設置　南北樹林帯を由仁町内外にPRするための案内看板を，南北樹林帯3カ所に設置した。看板には，ワークショップ参加者や地元の子供たちに将来の成長した森の姿を描いてもらった絵も掲載している（**写真-3**）。

写真-3　南北樹林帯に設置した看板

(2)　防風林維持管理マニュアルの作成　平成19年度に由仁地区の「防風林維持管理マニュアル」をワークショップで作成した。当初は植樹に主眼を置いた内容だったが，木の生長が進んできたことから，健全な樹勢を保つための剪定時期や維持管理の疑問点などワークショップ参加者から出された項目を追加して平成24年度に改訂した。

このマニュアルを参考に，早期の生長を促すための

写真-4　補植の様子

写真-5　現在の南北樹林帯

枝木剪定，枯木欠損の補植作業（**写真-4**）および下草刈りなどの維持管理活動を，受益者を中心にワークショップの活動として行ってきた。

現在では，植樹祭で植えたミズナラも2ｍを超え（**写真-5**），参加者からも「将来の景観変化がとても楽しみだ」と順調な生育を喜ぶ声も聞かれている。

(3)　事業完了後の防風林と南北樹林帯の維持管理について　由仁地区で整備した防風林や南北樹林帯が，期待される防風効果を発揮するまでには，5年から10年の期間を要し，その間の継続的な維持管理活動が必要である。そのため，今後はワークショップで作成されたマニュアルに基づきながら，周辺農家が維持管理を行っていく予定である。ミズナラは価値が高い樹木であるため，将来の間伐材を椎茸の原木や家具材などに有効活用されることも期待されている。

Ⅳ．　おわりに

平成16年度から続いてきた「みんなでつくる農業・農村の会」も，地元住民の参加に加え，関係団体の協力があり，今日まで継続することができた。開催内容に応じて，中心となる参加者も変わるため，いろいろな階層の地域住民が参加してきたため幅も徐々に広がり，またそのことにより地域の子供を対象としたイベントなども多く企画，開催することができた。

今後も防風林と南北樹林帯が由仁地区の景観シンボルになるよう立派に生長していくことに期待したい。

最後に，ワークショップ運営にご協力していただいた関係者の皆様に謝意を表する。　〔2013.3.13.受稿〕

宮本　治英（正会員）　　**略　　歴**

1972年　北海道に生まれる
1995年　帯広畜産大学卒業
　　（株）地域計画センター入社
2010年　同取締役
　　現在に至る

海野ちぐさ

1983年　山形県に生まれる
2008年　酪農学園大学大学院修士課程修了
　　（株）地域計画センター入社
　　現在に至る